



連協道路ニュース

横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel&Fax 892-9113 <http://www5e.biglobe.ne.jp/~renkyou/>

第 183 号

2004.04.04

横浜市・道路公団 説明会を強行

「住民参加」無視に沿線住民ら猛反発

冷たい雨の 3 月 24 日夜 7 時、桂台南の矢沢小学校体育館で環状南線と上郷公田線の設計用地説明会が開かれ、建設予定地域の地権者を中心に関係者約 400 名が出席した。

開会の冒頭、地元住民団体代表から「行政・事業者と湘南桂台自治会の間でボーリング調査や地盤沈下などの話し合いをしている最中に、一方的な説明会の設定は信義にもとる。」と説明会中止の申し入れがなされた。約 1 時間の設計用地説明があり、市の司会で質疑応答を開始。環状南線と上郷公田線における「住民参加」「説明責任」欠如を指弾する住民らの舌鋒は鋭く、予定の 9 時を超え午後 10 時まで横浜市・道路公団を厳しく追及した。

当該地の地盤沈下問題や公田地区設計用地説明会で明らかになった欠陥環境アセスメント問題が未解決のまま、事業再評価を来年 4 月に迎える今、大急ぎで説明会を開かねばならない理由を当局、事業者はまったく説明できなかった。住民側もプロジェクターを使って難しい議論を聴衆にわかり易く説明した。

住民福祉よりも建設優先の姿勢や具体的質問に曖昧な答えしか返せない無責任な官僚答弁を厳しく追及する地域住民の発言に会場からは再三、大きな拍手が沸き、寒い体育館は建設反対派市民の熱気で満たされた。

会終了後、「広報では解らない大変な問題がよく理解でき背景が本当に解った。」「このような会合をもっと開いて欲しい」と興奮ぎみに話していた中年女性の姿に当局への抗議と共に一般市民への啓蒙を重視してきた神戸橋連絡会の取り組みの成果を見た。

(神戸橋連絡会：庄戸 4 町会および連協傘下で神戸橋周辺地域の団体による連絡会)

(連協会長 柴田)

説明会に参加して

雨で寒かったにもかかわらず会場がいっぱいになるほどたくさんの方が集まりました。多くの方が高速道路問題について関心を持っていて不安を感じていることがわかりました。初めて参加していろいろな問題点があることを知ったという人もいました。参加しなかった人、または参加出来なかった人の中には、まだまだ何も知らない人がたくさん居ることがはっきりしたのではないのでしょうか。

地盤沈下(湘南桂台、西ヶ谷、ネオポリス)、大気汚染(神戸橋周辺)、騒音・低周波(神戸橋周辺)、地域分断・交通不便(コートハウス)など高速道路が地域(桂台～神戸橋)に与える環境破壊を訴えることが出来たのではないのでしょうか。

大切なのはこうした具体的な事実を知ってもらうこと、そして、新たに関心をもってくれた方々にどのようなアピールをしていくかが私達のこれからの課題であると思えました。(文責 高村)

栄公会堂一帯で地盤沈下 原因は地下 50 ㍓下水管

栄公会堂正面玄関から区役所方向へ、さらに建物を辿って西側へいくと建物壁と地面との接続部分やタイルが破損しコンクリートが割れ、手すりが斜めに傾いている光景を何カ所も目にすることができます。原因は地盤の沈下。建物の周辺の路盤が沈下し、道路のタイルや手すりが壊れたからです。



地盤沈下によるタイル破損

[沈下発生箇所]

公会堂、消防署、栄共済病院一帯

[工事・工法]

径 280 ㍉の下水管掘削工事。シールド工法。

[工事開始]

平成 12 年 6 月桂町交差点に縦坑 50 ㍉掘削。
戸塚遠藤線の地下 40-50 ㍉を掘り進めた。

[苦情の発生]

平成 13 年 4 月、栄共済病院から「渡り廊下に漏水」などの報告、これを契機に同年 4 月から地盤沈下調査を実施 (20 ヲ所以上)



- ①左階段下、道路接合部の間隙 10 ㍉
- ②中央壁下部及び右側壁下部が露出
- ③右側コンクリ壁が右下方向に陥没
右側壁の剥離 (一部修復済み)

[原因]

「下水管掘削工事が何らかの影響を及ぼしていることは否定できない。桂町交差点で縦坑を掘った時は水も出なかったし、ボーリング調査も 200 ㍉~300 ㍉おきに実施したが、こういう影響が出るとは予想できなかった。」(所長丸林和弘・同係長川上)

[付近の地盤など]

上は沖積層 (20 ㍉~30 ㍉)。下は大船層 (20 ㍉~30 ㍉)。「下水管は下の大船層という硬い所を掘り進めた。この下水管 (小さなトンネル) にどこからどのように地下水が影響しているのか不明」。「ボーリング調査では分からなかった」「周辺家屋の事前調査は行わなかった」

[建設事務所の対応]

民家に対しては損失補償 (損害補償ではない)、公会堂に関しては市民課と地盤補強工事などの対応をしている。(建設事務所)

[真相解明を]

ボーリングをしても事前予測できなかった地盤沈下が発生し、南部下水建設事務所でも因果関係を否定できず、損失補償交渉を行い、公会堂の補修も下水の予算で実施する方針とっています。

地下 50 ㍉の硬い地盤の大深度の工事、直径 280 ㍉でもこのような事態が起こります。埋立地を 40%以上も持つ軟弱地盤の桂台地区、犬山、上之、ネオポリス、西ヶ谷および朝日平和台など南線でも同じ事態が考えられます。この件に関してはさらに原因究明、真相解明を行う活動が必要と考えます。(皆川・山口)

篠原地盤沈下見学会報告

好天に恵まれた 3 月 27 日 (土) 午後 2 時、新横浜駅篠原口に集まった参加者は 13 名。地元の金子氏より提供された資料を基に、地盤沈下現場を見て廻った。

この地域は元来丘陵に挟まれた水田と畑であり、そこに新横浜駅や地下鉄 3 号線が出来、地下水脈が寸断され二次的に地盤沈下が起こった事が容易に考え得る。通り過ぎるだけでは何の問題も無いと思われる地域が、実際は地盤沈下の問題に曝されている事に驚きを感じた。一部補修されているとは言え、入り口階段の異様さ、地下埋設施設の露出、道路面のでこぼこ等、説明を聞いてみれば納得できる事ばかり。桂台も多くは埋立地であり、南線工事に伴ない同じ様な地盤沈下が間違い無く起こるだろうと思いつつ、帰路を辿った。

(和田)

活動記録

- 3 / 1 1 かながわ連絡会 (県民サポート C)
- 3 / 1 2 市道路局申入れ交渉 (横浜市役所)
- 3 / 1 7 交渉戦略打合せ (西ヶ谷ハイツ)
- 3 / 2 1 三役&事務局会議 (公田ハイツ)
- 3 / 2 2 用地説明会対策会議 (西ヶ谷)
- 3 / 2 4 設計用地説明会 (栄区矢沢小学校)
- 3 / 2 7 篠原地区地盤沈下見学会